

作成日 2002年 12月 19日

改訂日 2016年 08月 16日

改訂日 2022年 05月 20日

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	シールテープ
製品コード	R50356
供給者の会社名称、住所 及び電話番号	アサダ株式会社 名古屋市北区上飯田西町3-60 052-911-7165
緊急連絡電話番号	052-911-7165
FAX番号	052-914-2062
担当部門	営業本部
メールアドレス	sales@asada.co.jp
推奨用途及び使用上の制限	パイプの気密 これ以外の用途に使用しないこと

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性	区分に該当しない。
健康に対する有害性	区分に該当しない。
環境に対する有害性	区分に該当しない。

GHSラベル表示

絵表示	なし
注意喚起語	なし
危険有害性情報	なし
注意書き	なし
重要な徴候及び想定される 非常事態の概要	通常の手配では有害性はない。本製品を加熱すると、熱分解生成物（ヒューム）を発生し、これらを吸入すると、眼、鼻及び肺に刺激を生ずることがある。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 単一製品

化学名又は一般名	濃度%	化学式	官報公示整理番号	C A S 番号
ポリテトラフルオロエチレン（PTFE）	100	(C2F4) _x	6-939	9002-84-0

4. 応急処置

目に入った場合

テープ型の成型品であり、通常の作業下で目に入るとは考えにくい。
誤って目に入れた場合、直ちに清浄な水で5分以上洗眼する。
必要に応じて、医師の診断を受けること

皮膚に付着した場合	水と石鹼で洗うこと 溶融した樹脂が皮膚に接触した場合は、冷水で速やかに冷やし、皮膚に付着した樹脂を剥がしてはならない。 必要に応じて、医師の診断を受けること
吸入した場合	加熱または燃焼によるヒュームを吸い込んだ場合は、新鮮な空気の場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること 気分が悪いときは、医師に連絡すること
飲み込んだ場合	テープ型の成型品であり、通常の作業下で飲込むことは考えにくい。 誤って誤飲した場合、可能であれば吐き出させる。また必要に応じて医師の診断を受けること
急性症状及び遅発性症状の もっとも重要な兆候及び症状	情報なし
応急措置をする者の保護に 必要な注意事項	情報なし
医師に対する特別な注意事項	情報なし
5. 火災時の措置	
適切な消化剤	粉末・二酸化炭素・泡・乾燥砂
使ってはならない消化剤	情報なし
火災時の特定の危険有害性 特有の消火方法	高温下において、熱分解により有毒なガスが発生するおそれがある。 火災には、粉末、二酸化炭素、泡などの消化剤を用いる。高温下では有毒なガスが生じるため、消火にあたる者は必ず全面マスクのついた自給式呼吸器を着用すること。危険でなければ火災区域から本製品を移動する。
消火を行う者の保護特別な 保護	消火を行う者は、防護服および全面マスクのついた自給式呼吸器を必ず着用する。消火作業は風上から行う。
6. 漏出時の措置	
人体に対する注意事項、 保護具及び緊急時措置	作業者は適切な保護具を着用し、『8. ばく露防止及び保護措置の項を参照』眼、皮膚への接触や吸入を避ける。
環境に対する注意事項	河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。
封じ込め及び浄化の方法 及び機材	細片化し、散乱したときは回収し、『13. 廃棄上の注意』に従い廃棄する。
二次災害の防止策	情報なし
7. 取扱い及び保管上の注意	
取扱い	
技術的対策	『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。 『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。

安全取扱注意事項

周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。
 当該物質が煙草に付着した場合、喫煙により分解ガスを吸入する恐れがあるので、作業場への煙草の持ち込み禁止及び禁煙とする。
 排気用の換気を行うこと。粉じん、ヒュームの吸入を避けること
 取扱い後はよく手を洗うこと

接触回避

『10. 安定性及び反応性』を参照

保管

安全な保管条件

『10. 安定性及び反応性』を参照
 直射日光や熱を避け、室温で保管すること
 高温場所で保管しないこと
 保管場所で喫煙をしないこと

8. ばく露防止および保護措置

管理濃度

設定なし

許容濃度

設定なし

設備対策

通常環境下で使用する分には必要ない。万が一本製品が260℃以上になる可能性がある環境下では、換気を行うこと

保護具

呼吸用保護具

通常環境下で使用する分には必要ない。万が一本製品が260℃以上になる可能性がある場合、全面マスクのついた自給式呼吸器を着用すること

手の保護具

適切な手袋を着用すること

眼、顔面の保護具

適切な保護眼鏡を着用すること

皮膚及び身体の保護具

必要に応じて個人用の保護衣、保護面を着用すること

9. 物理的および化学的性質

物理的状态

固体

色

白色

臭い

無臭

融点・凝固点

データなし

沸点、初留点及び沸騰範囲

データなし

可燃性

難燃性

爆発下限界および爆発上限界
/可燃限界

データなし

引火点

引火せず

自然発火点

データなし

分解温度

データなし

PH

データなし

動粘性率

データなし

溶解度

水に不溶

n-オクタノール／水分配係数

データなし

蒸気圧

データなし

密度及び相対密度

0.8g/cm³ 以上

相対ガス密度

データなし

粒子特性 データなし

10. 安定性および反応性

反応性	常温では安定と考えられる。高温下では、260℃でわずかな分解が始まり350℃以上で分解が進行する。
化学的安定性	通常温度、気圧下では安定である。 加熱又は燃焼すると分解し、ふっ化水素などの有毒なヒュームが発生する。
危険有害反応可能性	通常の条件下では、危険有害な反応は起こらない。
避けるべき条件	高温、熱源、加熱、裸火
混合接触危険物質	アルミニウム及びマグネシウムのような金属の粉末、ふっ素及び三ふっ化塩素などのふっ素系酸化剤 混ざりあった状態で加熱されると反応し、火災や爆発を起こす危険性がある。
危険有害な分解生成物	熱分解生成物としては、粒子状物質及び非常に毒性で腐食性の蒸気が発生する。 熱分解生成物は、温度や条件によって異なる。 ふっ化カルボニル及びふっ化水素(400℃以上)、テトラフルオロエチレン(430℃以上)、ヘキサフルオロプロピレン(440℃以上)、パーフルオロイソブチレン(475℃以上)

11. 有害性情報

急性毒性	データなし
皮膚腐食性/皮膚刺激性	データなし
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	データなし
呼吸器感作性	データなし
皮膚感作性	データなし
生殖細胞変異原性	データなし
発がん性	データなし
生殖毒性	データなし
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	データなし
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	データなし
誤えん有害性	データなし
その他	ふっ素樹脂が熱分解した場合 ・健康に対する影響 燃焼した時に生じるヒューム熱を吸収すると、熱、悪寒、咳のような一時的な流感に似た症状のポリマーヒューム熱を生じる恐れがある。場合によっては一昼夜継続することがある。皮膚から吸収されることはなく、感作性に関する報告はない。

・ふっ化水素の影響

低濃度のふっ化水素を吸収すると、まず息苦しくなり、咳がでて、眼、鼻及び咽喉に重度の刺激を生じ、熱、悪寒が1～2日続いた後、呼吸困難、チアノーゼ及び肺水腫が起こる。ふっ化水素を高濃度で暴露すると肝臓及び腎臓を損傷する。

・ふっ化カルボニルの影響

皮膚：不快感又は発疹を生ずる。

眼：角膜または結膜の腫瘍を生ずる。

呼吸器系：刺激、肺、咳、不快感、呼吸困難または息切れなどの一時的な刺激を生ずる。（肺疾患の経験者は、熱分解生成物の過剰な暴露による毒性の影響を受け易い。）

・パーフルオロイソブチレンの影響

微量でも毒性は極めて高い。

1 2. 環境影響情報

水生環境有害性(急性)	データなし
水生環境有害性(長期間)	データなし
生態毒性	データなし
残留性・分解性	生分解性はないと考えられる。
生態蓄積性	データなし
土壌中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	データなし

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物	内容物/容器は国際・国・都道府県・市町村の規則に従って廃棄すること。 事業者は産業廃棄物を都道府県知事の認可を受けた産業廃棄物処理業者、又は地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。
汚染容器及び包装	内容物/容器は国際・国・都道府県・市町村の規則に従って廃棄すること。 事業者は産業廃棄物を都道府県知事の認可を受けた産業廃棄物処理業者、又は地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。
その他	本製品を処分する場合、廃プラスチック類として処理する。本製品は加熱により複数の有毒な生成物を生じる。そのため、廃棄の際は可能な限り埋立処分により処分すること。焼却処分の際は、本製品がフッ素樹脂であることを十分に伝達・理解する。また国際・国・都道府県・市町村の規則を遵守し、適切な設備と条件の下で処分を行うこと。

1 4. 輸送上の注意

国際規制

国連分類	該当しない
陸上規制情報	該当しない
海上規制情報	該当しない
航空規制情報	該当しない

国内規制

陸上輸送情報	該当しない
海上輸送情報	該当しない
航空輸送情報	該当しない

特別の安全対策

輸送の前に容器の破損、腐食、漏れ等のないことを確かめる。
輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れを生じないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。重量物を上積みしない。

1 5. 適用法令

消防法	非危険物
労働安全衛生法	該当しない
毒物及び劇物取締法（PDSCL）	該当しない
化学物質管理促進法（PRTR法）	該当しない

1 6. その他の情報

参考文献

経済産業省「事業者向けGHS分類ガイダンス」
nite独立行政法人製品評価技術基盤機構HP
材料メーカーSDSなど

製品安全データシートは、危険有害な化学製品について、安全な取扱いを確保するための参考情報として、取り扱う事業者提供されるものです。取り扱う事業者は、これを参考として、自らの責任において、個々の取り扱いなどの実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願いします。従って、本データシートそのものは、安全の保証書ではありません。